あなたと博物館

松本市立博物館ニュース　No.208　2017.1.1

もくじ

誌上博物館 ◇ 新春　福袋企画　学芸員による当館のイチオシ詰め合わせ……2-3
ガイドコーナー ◇ 展覧会……4
ガイドコーナー ◇ はんてんぼく……4

1月3日は市立博物館へ行こう！

［開館時間］午前10時～午後4時

松本市立博物館を無料開館します。当日は博物館友の会による風水だるまなどの縁起物や七福神と干支ピンバッジの販売を行います。

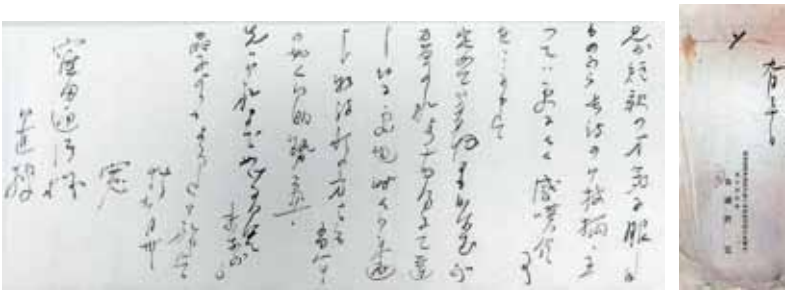
新春 福袋企画

窪田空穂記念館から「空穂あて与謝野鉄幹書簡（明治38年9月30日）」

窪田空穂は、東京専門学校（現・早稲田大学）を一度中退、郷里で悩み暮らした時期があります。ちょうどその頃、太田水穂に刺激を受けたことで、短歌作りを始めました。22歳のことです。

空穂の短歌は水穂から一笑に付されてしまいましたが、空穂はその評価に納得できませんでした。そこで、当時名を馳せていた与謝野鉄幹が選者を務める雑誌に投稿してみたところ、鉄幹からは絶賛されたのです。そして期待の歌人として、鉄幹主宰の『明星』にも加わりました。鉄幹の評価は、空穂の大きな自信になりました。

空穂は明治38年（1905）に初の歌集『まひる野』を出版し、鉄幹にも贈呈しました。写真の書簡は、そんな空穂にあて鉄幹が謝意を込めて送ったものです。この時、二人は目指す方向性こそ違っていましたが、鉄幹が空穂の才能に注目していたことがよく分かります。



書簡の一部分：「兄（空穂）が短歌の才気に服し候」と記されている

（学芸員 / 高山直樹）

四賀化石館から「鳥の足跡の化石」

鳥の足跡の化石
産地：福井県大野市後野
時代：中生代白亜紀前期
蜂谷喜一郎氏寄贈

化石の種類に「生痕化石」と呼ばれるものがあります。文字通り、ある生物の活動の痕跡が地層の中に残されているものです。この「鳥の足跡の化石」は恐竜が闊歩していた時代に、ある鳥が残した足跡です。おそらく現在のキジほどの大きさでしょう。どんな鳥だったのかはわかりませんが、中生代白亜紀の地球上で、まさに生きていた証拠を残してくれました。

福井県大野市では恐竜や鳥類の足跡化石が多数発見され、最近では肉食恐竜の歯化石もみつかっています。最新の研究では、恐竜は鳥に進化して現在も生きているという言い方をすることがあります。化石に色の情報はありませんが、鳥と恐竜が共存していた時代の地球はきっとカラフルだったことでしょう。

（学芸員 / 高木美保子）

時計博物館から「地球儀回転時計」

この時計は、明治31年（1898）創立の豊橋時計製造会社の作品で、三木福輔が考案した時計です。振子付きアンクル機械を備えた1週間巻きの置時計です。正時ごとに時報が鳴りますが、時報の鐘が底部に置いてあるのは珍しい機構です（多くの時計は機械の上部に取り付けてあります）。「大日本山河図」と記された地球儀を備え、見えにくいですが「印度」や「南大西洋」などの文字も記されています。日本列島も確認しづらいですが、「四国」や「神戸」の表記が見られます。

時計内部

地球儀に描かれた日本

（学芸員 / 山下太一）

学芸員による 当館のイチオシ詰め合わせ

馬場家住宅から「松本平の御柱」

塩尻市から松本市、安曇野市にかけての地域に伝わる、「御柱」または「おんべ祭り」と呼ばれる伝統行事をご存知でしょうか。

御柱というと諏訪大社の御柱祭が有名ですが、松本平では、新年に道祖神のお祭りとして毎年行われるもうひとつの御柱があります。大半は期間が1週間から10日間と短く、道祖神の近くにあるため、各地区以外の人の目にはあまり留まりません。

松本市では内田地区の横山、北花見、荒井、そして梓川倭の横沢町会と梓川上野、波田地区の13・14地区、この7地域の行事は、松本市重要無形民俗文化財に指定されています。

この行事は、神霊が御柱に降臨することを信じて豊穣を祈り、福運にあやかろうとした先人たちの心意が、今に息づく祭りといわれています。

（学芸員／大島 浩）

内田のおんべ祭り（北花見）

旧制高等学校記念館から「松本高等学校 落成記念帖」（大正11年発行）

写真に収められている講堂は現在も市民に活用され、親しまれている。

この資料は、旧制松本高等学校（以下「松高」）校舎が現在のあがたの森に完成した際に発行された写真集です。

松高設立は、松本にとっては明治時代からの悲願でした。そのためか、設置が決定した翌年には校舎未完の状態にもかかわらず入学者を迎え入れています。記念帖からは、大正11年（1922）に落成となる以前の、未完成で真新しい校舎で生き生きと過ごす学生たちの様子を見ることができます。最初の卒業生は校舎の完成を見ないまま松高を後にしましたが、校舎建築と並行して今に続く松高の文化をつくりあげていきました。創設期の学生たちの力強さが感じられる資料です。

（学芸員／麻生沙絵）

松本民芸館から「だるま」

だるま（達磨）は禅宗開祖の達磨大師の座禅姿を模したものと言われ、現在では縁起物として広く親しまれています。

松本民芸館には、松本だるまや信州中野、埼玉鴻巣、新潟、大阪などのだるまと、その木型およそ30点が丸山太郎により蒐集されています。

松本だるまは江戸時代後期に、養蚕が盛んであった松本で、その発展を願って生まれたようで、眉（まゆ）とひげに蚕（かいこ）の繭（まゆ）の形をかたどったふさふさとした毛が生えています。

また、蚕がよくとれた年を「大當」（おおあたり）といったことから、だるまのお腹にも『大當』の文字が書かれ、当たり年になりますようにという願いが込められています。顔色も健康的なピンク色で、なごみ系のだるまです。

（館長・学芸員／田中有規子）

松本だるま

ガイドコーナー　展覧会

新春特別展　松本ゆかりの武器・武具―新収蔵資料を中心に

平成28年に博物館に寄贈･寄託された歴史資料の中から、松本藩家臣の甲冑や松本藩主が描いた書画などを展示紹介します。また、保管上の観点から公開する機会の少ない館蔵の日本刀･火縄銃なども、あわせて展示します。

会　期　1月3日(火)～2月19日(日)
会　場　松本市立博物館2階特別展示室
料　金　通常観覧料（大人200円、小中学生100円）

ガイドコーナー　はんてんぼく

松本市立博物館から　☎0263-32-0133

平成 29 年丁酉（ひのとり）「宝船七福神と干支ピンバッジ」販売

日　　時　1月3日（火）
　　午前10時～なくなり次第終了
会　　場　松本市立博物館
価　　格　620円（限定220個　先着順）

年中行事シリーズ「まゆ玉サービス」

来館者に行事食「まゆ玉」をふるまいます。

日　　時　1月14日(土)午前10時～なくなり次第終了
会　　場　松本市立博物館
問 合 せ　松本市立博物館へ

時計博物館から　☎0263-36-0969

平成29年「あめ市歴史展示」～移りゆくあめ市～

城下町松本の新春をいろどる祭典である「あめ市」は、古来より様々に形を変えながら伝統行事として続いてきました。本展では、あめ市の今と昔を比較し、全体像や歴史を分かりやすく解説します。

会　　期　1月4日（水）～1月29日（日）
会　　場　時計博物館　3階企画展示室
料　　金　無料（ただし1､2階常設展は大人300円､小中学生150円）
問 合 せ　時計博物館へ

歴史の里から　☎0263-47-4515

写真展「歴史の里ってどんなとこ？」

はた織りや草木染めの体験など 2016 年の歴史の里の活動を写真で振り返るとともに、歴史的建造物である館周辺の四季折々の写真を展示し、歴史の里の魅力をご紹介します。

会　　期　1月28日（土）～4月16日（日）
会　　場　歴史の里　展示休憩棟
料　　金　通常観覧料（大人400円、中学生以下は無料）
問 合 せ　歴史の里へ

はかり資料館から　☎0263-36-1191

企画展「中町今昔物語展」

松本の商業の中心地であった中町界隈の明治以降の変遷を写真や資料で紹介します。

明治 40 年頃
明治堂新聞店の元旦の初配り

会　　期　1月6日（金）～2月12日（日）
会　　場　はかり資料館
料　　金　通常観覧料
　　（大人 200 円、中学生以下無料）

※1月8日(日)は､「松本あめ市」による中町商店街の歩行者天国に合わせて無料開館となります。博物館友の会ボランティア部会の協力により､松本だるまの露店販売を行います。

大正 5 年
中村屋砂糖店の初荷風景

問 合 せ　はかり資料館へ

考古博物館から　☎0263-86-4710

八十二銀行ウインドーギャラリー展「戦国時代松本の城砦」

戦国時代、松本の各地でつくられた山城や、城館跡の発掘調査の様子を写真で展示します。国史跡の指定が注目されている井川城跡や林城跡を、この機会にぜひご覧になってください。

会　　期　1月11日（水）～2月1日（水）
場　　所　八十二銀行松本営業部
　　ウインドーギャラリー
料　　金　無料
問 合 せ　考古博物館へ

井川城跡の発掘状況
（主郭南西部の礎石建物跡）

速報展「発掘された松本 2016」

2016 年中に松本市内で実施した発掘調査等について、出土品や写真を展示し、その成果をいち早くご紹介します。

会　　期　2月11日（土）～2月26日（日）
場　　所　時計博物館 3 階　企画展示室
料　　金　時計博物館の通常観覧料(大人300円､小人150円)
問 合 せ　考古博物館へ

関連事業「発掘された松本 2016 ～松本市遺跡発掘報告会」

日　　時　2月18日（土）午前11時～午後4時
会　　場　M ウイング 6 階ホール
料　　金　無料
問 合 せ　文化財課埋蔵文化財担当へ　☎0263-85-7064

あとがき

今年もなんとなくスタートさせたい…
新年を迎えるにあたっての心境です。私は気合いを入れて物事を始めると飽きてしまうのですが、なんとなく始めたことは不思議と今も続いています。今年はなんとなく「あれ」を始めたいなぁ。　(N.T)

あなたと博物館 No.208
発行年月日/平成29年1月1日
編集･発行/松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133
URL：http://www.matsu-haku.com/
e-mail：mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp
印刷　川越印刷株式会社